

Delivering value to society through our evolving technology

川崎重工グループの研究開発の基本方針

川崎重工グループの将来にわたる企業価値向上に向けて、持ち得る技術を結集するとともに、「技術のシナジー」の活用を追求し、競争力のある新製品・新事業の開発に、事業部門と本社技術開発本部が一体となって取り組んでいます。

グループの研究開発は、各事業部門の「新製品・新事業」開発、および将来の「新製品・新事業」の創出に向けた活動と、それらを達成するための「基盤技術」の育成・強化に、バランスよく取り組んでいます。

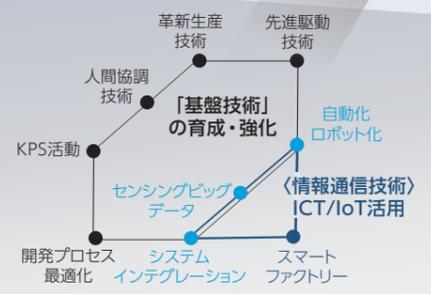
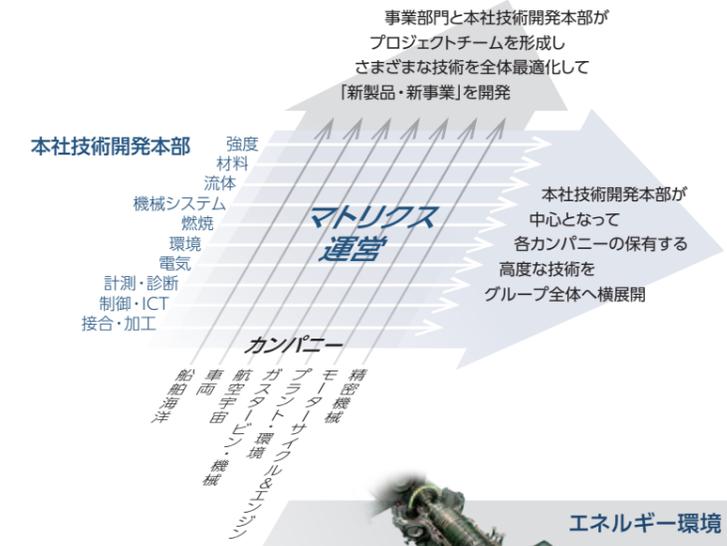
研究開発費
2018年度見通し 500億円
2017年度見通し 480億円
2016年度実績 436億円



「技術のシナジー」創出の仕組み —マトリクス運営—

事業部門の技術者と本社技術開発本部のさまざまな分野の専門家がプロジェクトチームを組んで課題を共有し、常に全体最適を目指して「新製品・新事業」の開発に取り組んでいます。また、各事業部門が保有する技術的なコア・コンピタンスを、本社技術開発本部が仲介して他の事業部門の製品へ相互に活用することで、技術の多面的な展開が可能となり、大きなシナジー効果が発揮されます。

この「マトリクス運営」を採用することにより、当社グループ全体で「技術のシナジー」を創出し、さらなる企業価値の向上を目指しています。



強化する研究開発分野

最新の情報通信技術 (ICT/IoT) を活用し、新たなサービスを創出することで製品の顧客価値向上を図るとともに、生産のリードタイム短縮・低コスト化も推進し、製品ライフサイクル全体における収益力の向上に向け、全社を挙げて取り組んでいます。

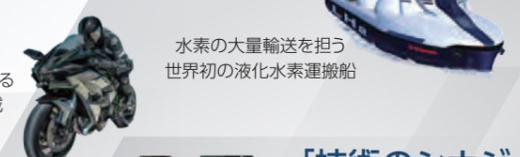
たとえば、AIを活用し、ライダーと共に成長する人格を持つ次世代のモーターサイクルを開発しています。また、発電プラントの稼働率向上や保守コストの低減に向けた遠隔監視・故障診断、車両のメンテナンス事業拡大に向けた状態診断など、新サービスの構築に向け積極的に開発を進めています。

さらに、当社グループは将来の中核事業の一つとして、2009年度から本格的に水素プロジェクトに取り組んでいます。水素の製造・輸送・貯蔵、利用までのサプライチェーン全般に関わる主要な機器・設備のサプライヤーとして、市場における先行者ポジションの確保を目指しています。

現在、既に高圧水素トレーラ、液化水素コンテナ、水素混焼ガスタービンは開発を完了し、営業活動中です。また、水素液化機、液化水素運搬船や液化水素基地の開発を推進しています。

水素サプライチェーン構築実証事業 詳細はp52

陸・海輸送システム



「技術のシナジー」の取り組み

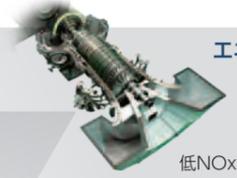
圧倒的な軽量化を実現する複合材を適用した鉄道台車

航空輸送システム



複合材胴体と高効率エンジンを採用した民需航空機

エネルギー環境



ROBO・MECH

